

## 出エジプト記 7:8-10:29 十の災い

これまで、出エジプト記において、神がモーセにご自身を現し、代弁者として神のことばをファラオに告げ、神の民が主を礼拝できるように、エジプトを去らせるようファラオに対し要求せよ、とモーセに命じた場面を見てきました。そして、モーセがイスラエルの民にそれを伝えると、民はいったんはその知らせに喜びましたが、目先では、奴隷監督からの迫害がいっそう激しくなることを悟りました。そしてここから、神がエジプトに対する十の災いを通してファラオを従わせます。しかし出エジプト記 7 章 8 節から 10 章の終わりまでを読むことで、ここで起きていることは、単にファラオを説得してヘブル人をエジプトから去らせるという以上の意味を持っていることがわかります。まず、出エジプト記 7 章 8 節から、初めの災いにつながる出来事を読んでいきましょう。<sup>8</sup>また主はモーセとアロンに言われた。<sup>9</sup>「ファラオがあなたがたに『おまえたちの不思議を行え』と言ったら、あなたはアロンに『その杖を取って、ファラオの前に投げよ』と言え。それは蛇になる。」<sup>10</sup>モーセとアロンはファラオのところに行き、主が命じられたとおりに行った。アロンは自分の杖をファラオとその家臣たちの前に投げた。すると、それは蛇になった。<sup>11</sup>そこで、ファラオも知恵のある者と呪術者を呼び寄せた。これらエジプトの呪法師たちもまた、彼らの秘術を使って同じことをした。<sup>12</sup>彼らがそれぞれ自分の杖を投げると、それは蛇になった。しかし、アロンの杖は彼らの杖を呑み込んだ。<sup>13</sup>それでもファラオの心は頑なになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。

モーセは、彼のことばには神の力があることを示すため、あるしるしを神から与えられていました。杖を地面に投げると、それが蛇になるというしるしでした。モーセがそれを行うと、ファラオも呪法師を呼び寄せ、彼らも同じことをします。しかし呪術者が行うのは奇術、まやかしであって、奇跡ではありません。これは秘術と書かれており、超自然的な力ではなく、手先の技によるごまかしであると暗示しているようです。そして神は、その偽の奇跡をあざけるかのように、アロンの杖の蛇に、呪法師たちの杖を呑み込ませてしまいます。それでもファラオは、呪法師たちのまやかしを見て、モーセとアロンの言うことを聞く必要はないと判断します。このあと繰り返し見るように、ファラオの心は頑なになります。これについては、また後ほど見ていきます。杖を蛇に変えるという奇跡によって神の力を見せても、ファラオは心を変えませんでした。そして神も、それを見越しておられました。そこで、神はエジプトに十の災いあるいは呪いを与え、ヘブル人を去らせるようファラオに迫ります。今日は最初から第九までの災いを見ていき、特別な意味を持つ第十の災いについては、来週取り上げます。では、最初の災い：血に変わるナイル川を見てみましょう。それぞれの災いは基本的に、ファラオと対峙する場面から始まります。ファラオと対峙したモーセは、イスラエルの民を去らせなければ、何が起こるかを警告します。9 章 18 節に、<sup>18</sup>ナイル川の魚は死に、ナイル川は臭くなります。それで、エジプト人はナイル川の水を飲むのに耐えられなくなります。』と書かれています。モーセによってこれが実際に起こり、21 節に、「エジプト全土にわたって血があった。」と書かれています。この最初の災いでも、呪法師たちは偽の奇跡を用いて同じことをし、ファラオはこれを見て心を頑なにしました。22~23 節に、<sup>22</sup>しかし、エジプトの呪法師たちも彼らの秘術を使って同じことをした。それで、ファラオの心は頑なになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。<sup>23</sup>ファラオは身を翻して自分の家に入り、このことにも心を向けなかった。と書かれているとおりで、最初の災いを含む全ての災いはエジプト人全体に影響を及ぼしますが、後に、イスラエルの人々は災いから守られていることが明らかにされます。24~25 節に、<sup>24</sup>全エジプトは飲み水を求めて、ナイル川の周辺を掘った。ナイル川の水が飲めなかったからである。<sup>25</sup>主がナイル川を打たれてから七日が満ちた。と書かれているとおりで、ここに七日が満ちたとあることから、それぞれの災いの間におおよそ一週間の期間があり、全体で約三か月間の出来事だったと推測されます。私たちが注目すべきは、これらの災いそれぞれに、意味があることです。エジプトの宗教は、多くの点で歴史上のほかの異教、数千もの神々の存在を認めるヒンドゥー教や、それに由来する仏教にも共通しています。仏教は日本の神道とも融合し、様々な「神」や霊的存在を認めています。自然界のあらゆる部分に神々が宿っており、人々の境遇に応じて、様々な祝福をもたらすと信じられていました。災いは、エジプト人が信じていた偽りの神々を直接攻撃す

るものでした。最初の災いでは、ナイル川が攻撃の対象でした。エジプトに関する基本的な知識があれば、ナイル川は、特に古代において国家の命の源とされてきたことをご存じかもしれません。この川そのものが「神」として崇拝されていたのです。ですから、神がナイル川を血に変えたことは、唯一の真の神が、その川を支配していることの証しだったのです。

次に訪れるのが**第二の災い：蛙の災い**です。蛙が異常な速さと量で繁殖し、**出エジプト記 8 章 6 節**には<sup>6</sup> **アロンが手をエジプトの水の上に伸ばすと、蛙が這い上がって、エジプトの地をおおった。**とあります。ここでも呪法師たちは、規模は小さいもののまやかしを使って蛙を出しましたが、今回はファラオの反応が少し異なります。**出エジプト記 8 章 8 節**でファラオはモーセに、ファラオに代わって蛙が取り除かれるように祈るよう要求し、そうすれば**主にいけにえを献げる**ために、民を去らせると約束しました。モーセはそこで、「いつ蛙を取り除いてほしいか」と、奇妙にも思える質問をします。10 節には、次のように書かれています。<sup>10</sup> **ファラオが「明日」と言ったので、モーセは言った。「あなたのことばどおりになりますように。それは、あなたが、私たちの神、主のような方はほかにいないことを知るためです。**このようにファラオに指定させることで、蛙が現れたことと、蛙が取り除かれることが偶然ではなく、神の力によることが示されました。しかし蛙が取り除かれると、ファラオは再び心を硬くし、民を去らせませんでした。ところで、なぜ蛙なのでしょう。蛙は、神聖なものとみなされていました。蛙の姿をした女神は出産の神とされており、エジプト人は、蛙を殺すことができませんでした。その後すぐに起こるのは**第三の災い：ブヨの災い**です。ただし、この「ブヨ」が実際に何を指すのかははっきりしていません。シラミや蚊、何らかの小さな羽虫の類いだったかもしれません。**8 章 17 節**に「**地のちりはみな、エジプト全土でブヨとなった。**」とあり、これは、エジプト人が崇拝していた偽りの地の神に対する真の神の力を示しました。今回は、呪法師たちはブヨを出すまやかしはできず、また、これ以降に起こるますます厳しい災いも模倣することができなくなりました。19 節には、次のようにあります。<sup>19</sup> **呪法師たちはファラオに「これは神の指です」と言った。しかし、ファラオの心は頑なになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。**ファラオがへりくだり、神とは、その指を使うだけでエジプトの国全体に非常に深刻な事態をもたらすことができるお方であると理解したのは、さらに七つの災いが起こってからでした。

次に、**第四の災い：アブの災い**です。この災いは、偽りの復活の神、ケプリに対する攻撃だった可能性があります。ケプリは、フンコロガシのような昆虫の姿であるとされており、アブはこれを指していたのかもしれません。この災いはまた、世界の秩序を維持する存在とみなされていたファラオに対する攻撃であったとも考えられます。神はそれぞれの災いによって、世界に混沌をもたらし、世界を維持しているのは神ご自身であることを示されました。ファラオは毎回、民を去らせると約束しますが、常に異なる条件を付けました。**出エジプト記 8 章 25 節**には、次のようにあります。<sup>25</sup> **ファラオはモーセとアロンを呼び寄せて言った。「さあ、この国の中でおまえたちの神にいけにえを献げよ。」**もちろん、エジプトを去ることが認められなければ意味がありませんので、**27～28 節**で次のやりとりがあります。<sup>27</sup> **私たちは、主が私たちに言われたとおり、荒野へ三日の道のりを行って、私たちの神、主にいけにえを献げなければなりません。」**<sup>28</sup> **ファラオは言った。「では、おまえたちを去らせよう。おまえたちは荒野で、おまえたちの神、主にいけにえを献げるがよい。ただ、決して遠くへ行ってはならない。私のために祈ってくれ。」**しかしアブが離れた後、ファラオはまたも心を硬くし、民を去らせませんでした。第五の災いでは、エジプトに対してより大きな被害がもたらされます。エジプト人は、様々な家畜を神として崇拝しており、偶像だけでなく、生きた雄牛を神聖であると崇める信仰することもありました。このような偽りの神々に向けた攻撃として、**第五の災いは、エジプトの多くの家畜の死**という形でもたらされましたが、イスラエルの家畜は一頭も死にませんでした。**出エジプト記 9 章 2 節**でモーセは、次のように言います。<sup>2</sup> **もしあなたが去らせることを拒み、なおも彼らをとどめておくなら、**<sup>3</sup> **見よ、主の手が、野にいるあなたの家畜、馬、ろば、らくだ、牛、羊の上に下り、非常に重い疫病が起こる。**しかし、またしても **7 節**に、次のようにあります。**それでもファラオの心は硬く、民を去らせなかった。****第六の災い**は、癒しを司るとされた偽りの神々への直接的な攻撃です。ア



モン・ラー、トート、イムホテプ、セクメトと呼ばれる神々です。この災いでは、神がモーセに「かまどのすすを取ってファラオの前で天に向けてまき散らせ」と命じ、それが人々と動物に腫れものを生じさせます。この災いも、エジプトの民にのみ起こり、イスラエルの民には及ばなかったことは明らかなようです。第六の災いでは、これまでと異なる点があります。出エジプト記 9 章 12 節に次のように書かれています。<sup>12</sup> **しかし、主はファラオの心を頑なにされたので、ファラオは二人の言うことを聞き入れなかった。主がモーセに言われたとおりであった。**ここでは、ファラオの心を頑なにされたのは神ご自身であると明記されています。ではそれによって、ファラオは、神を拒絶したという罪の責任から免れるのでしょうか？全くそうではありません。むしろ、第七の災いにおいては、ファラオが心を硬くしたことが、明らかに「罪」と呼ばれています。9 章 34 節に、次のようにあるとおりです。<sup>34</sup> **ファラオは雨と雹と雷がやんだのを見て、またも罪に身を任せ、彼とその家臣たちはその心を硬くした。**神はモーセを通して、なぜファラオの心を頑なにされたのかを明確に語られています。出エジプト記 9 章 16 節に、次のように書かれています。<sup>16</sup> **しかし、このことのために、わたしはあなたを立てておいた。わたしの力をあなたに示すため、そうして、わたしの名を全地に知らしめるためである。**神の目的は、ご自身の栄光を示し、ご自身の名を全地に知らしめることです！その目的のために神は、主権者としてのご自身の選択により、ファラオの罪を用い、公然とそして完全にファラオの力を打ち砕くことで、ご自身の栄光を現されます。ローマ人への手紙 9 章において、パウロは、出エジプト記におけるまさにこの部分のことばを引用し、神がご自分の被造物に対して主権を持ち、救いに選ぶ者を定め、またあわれみを示す者をお選びになることを説明しています。同時に、聖書には、人が自分の罪に対して完全に責任を負う存在であることも明らかにされています。ここでの出来事において、神の主権と人の責任はどちらも真実であり、私たちは、この二つが両立し難いように見えても、両方を真理として受け止めなければなりません。ローマ人への手紙 3 章 23 節に「<sup>23</sup> **すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**」とあるの聖書のことばは真実です。そして、ペテロの手紙 第一 2 章 9 節に、(わたしたちは) **選ばれた種族、...**とある神のことばも、真実なのです。

驚くべきことに、第七の災いである雹の災いの頃には、エジプト人の中にも神の栄光が示されたことに反応し、何らかの形で真の神を礼拝する者が現れていたことがわかります。出エジプト記 9 章 20～21 節に、次のようにあるとおりです。<sup>20</sup> **ファラオの家臣のうちで主のことばを恐れた者は、しもべたちと家畜を家に避難させた。**<sup>21</sup> **しかし、主のことばを心に留めなかった者は、しもべたちと家畜をそのまま野に残しておいた。**9 章 27～28 節では、ファラオは雹を取り除かせるため、偽りの悔い改めすら見せます。<sup>27</sup> **ファラオは人を遣わしてモーセとアロンを呼び寄せ、彼らに言った。「今度は私が間違っていた。主が正しく、私と私の民が悪かった。」**<sup>28</sup> **主に祈ってくれ。神の雷と雹は、もうたくさんだ。私はおまえたちを去らせよう。おまえたちはもう、とどまっていてはならない。」**もちろんファラオは、この約束を守りませんでした。この第七の災いも、大気の神、天空の女神、水分の女神、風の神など、エジプトの多くの神々に対する攻撃でした。しかし第八の災いは、**畑の神々に対する攻撃**であると同時に、人々の食料の供給に甚大な影響を及ぼすものでした。出エジプト記 10 章 14～15 節に、この災いについて書かれています。<sup>14</sup> **いなごの大群はエジプト全土を襲い、エジプト全域にとどまった。これは、かつてなく、この後もないほどおびただしいいなごの大群だった。**そして 15 節の最後に、次のようにあります。**エジプト全土で、木や野の草に少しの緑も残らなかった。**かつてはイスラエルの民を飢饉から救ったこの国が、今やその民を奴隷にしたことで、飢饉に直面するのです。神がモーセに第八の災いを告げさせる中で、神が求めているのは、イスラエルの民だけでなく、エジプト人をも、ご自身を礼拝する者とするということであると示されています。出エジプト記 10 章 1 節に次のように書かれています。**主はモーセに言われた。「ファラオのところに行け。わたしは彼とその家臣たちの心を硬くした。それは、わたしが、これらのしるしを彼らの中で行うためである。」**これらの災いは、エジプト人に神のしるしを見せ、礼拝へと導くためのものだったのです。しかし続いて、2 節にはこうあります。 **また、わたしがエジプトに対して力を働かせたあのこと、わたしが彼らの中で行ったしるしを、あなたが息子や孫に語って聞かせるためである。こうしてあなたがたは、わた**

しが主であることを知る。」これらの災いは神の力をイスラエルに示し、世代を超えて、人々に神を礼拝させるためでもあったのです。

そして、第九の災いです。第十の災いが人命を奪うという点で最も壊滅的であった一方、第九の災いは、ファラオ自身に対する直接的な攻撃でした。ファラオはラーまたはレーと呼ばれる太陽の神の子とされていました。ラーはまた、世界を創造した神であるとも考えられていました。代々のファラオは、この「神」の生きた化身と信じられていたのです。したがって、毎朝太陽が昇るたびに、アモン・ラーの力とファラオの力があらためて示されたのでした。第九の災いについては、**出エジプト記 10 章 21 節**に書かれています。<sup>21</sup> **主はモーセに言われた。「あなたの手を天に向けて伸ばし、闇がエジプトの地の上に降りて来て、闇にさわれるほどにせよ。」**みなさんは、さわれるほどの闇を経験したことがあるでしょうか？この災いでもたらされたのは、そのような闇でした。そしてこの現象が自然現象ではなく超自然的な働きであることを明確に示すために、23 節にはこうあります。<sup>23</sup> **人々は三日間、互に見ることも、自分のいる場所から立つこともできなかった。しかし、イスラエルの子らのすべてには、住んでいる所に光があった。**ファラオはこれまで少しずつ譲歩してきましたが、依然として完全には要求を認めようとしませんでした。そしてこの災いの後、ファラオは「行ってもよいが、家畜は置いていけ」と言います。もちろん、これを受け入れることはできないので、モーセは拒否します。そして二人の最後のやりとりが 27～29 節に書かれています。<sup>27</sup> **しかし、主がファラオの心を頑なにされたので、ファラオは彼らを去らせようとはしなかった。**<sup>28</sup> **ファラオは彼に言った。「私のところから出て行け。私の顔を二度と見ないように気をつけろ。おまえが私の顔を見たら、その日に、おまえは死ななければならない。」**<sup>29</sup> **モーセは言った。「けっこうです。私はもう二度とあなたのお顔を見ることはありません。」**

長いメッセージとなっていますが、あと数分です。今日の聖書箇所からの、二つの適用についてお話ししたいと思います。一つは、霊的なこと、宗教的なことについてです。神社や寺を訪れるとき、ほとんどの人は何をしようか？人々はたいてい、人生のいろいろな事に対し、何らかの助けや幸運を求めています。ですから、神社や寺で、お守りやお札のようなものをもらいます。多くの人はこれを礼拝だとは思っておらず、むしろおまじないのように考えています。確かにそれは礼拝ではないかもしれませんが、偽りの神や迷信に関係する霊的なことに希望を置いていることに変わりはありません。日本に限らず、他の文化においても、様々な面で迷信に従う人々はいます。エジプト人が偽りの神に希望を置いていたのと同じように、こうした迷信も、人々に偽りの希望を抱かせます。クリスチャンとして、私たちの希望は、このような迷信の基となっている霊的な要素ではなく、真に偉大な、神ご自身であられるキリストにあるべきです。これらの災いがはっきりと示しているのは、聖書の神が、人間が作り出した宗教体系における偽りの神々ではない、はるかに偉大な存在であるということです。そして、二つ目の適用があります。私たちは、たとえ健康の神、自然の神、繁栄の神、あるいはファラオのような特定の人間を神として崇拝していないとしても、実際、現実には、こういった神以外のものに希望を置いてしまうことがあります。医師の力に希望を置いてしまうことがあります。環境問題に関心を持つあまり、創造主である神よりも、被造物である自然を上置いてしまうことがあります。神ではなく、政治家や牧師にすら希望を託すことがあります。しかし、今日見た災いから私たちが学ぶべきことは、私たちの神は、この世のいかなるものよりも偉大であるということです。もし私たちが、自分の希望や救いを、神ご自身であるイエス・キリスト以外の人や何かに置いているのであれば、私たちに希望はないのです。それを、エジプトの人々は、彼らの「神」であるファラオが、いかに真の神の前で無力であるかを目の当たりにすることで学びました。現代においても、世のあらゆるものが私たちに、古代エジプトの人々が偽りの神々に置いていたような偽りの希望を私たちに抱かせようとします。しかし、当時と変わらない、力ある神が、この世のほかの何よりも信頼すべき、揺るぎない土台であることを見失ってはなりません。聖書に記されている神の偉大なわざ、そして今日、私たちの人生において現れるその力を通して、神は私たちに、ご自身に栄光を帰すよう命じておられるのです。この神を信頼しましょう。お祈りします。

## Exodus 7:8-10:29 The Plagues

So far in the book of Exodus we have seen God reveal himself to Moses and call him to be his mouthpiece before Pharaoh in demanding that Pharaoh let God's people go out of Egypt in order to worship him. Then we saw Moses go to the people of Israel who at first welcomed his message, but then realized that in the short term it would bring even more persecution from their slave masters. Now we see God convince Pharaoh through a series of 10 plagues that come on Egypt. But there is more going on here than simply convincing Pharaoh to let the Hebrews leave as we will see as we look at chapter 7 starting with verse 8 and going through the end of chapter 10. Let's begin by reading the events that lead to this series of plagues starting in verse 8 of Exodus 7. <sup>8</sup>Then the Lord said to Moses and Aaron, <sup>9</sup>When Pharaoh says to you, 'Prove yourselves by working a miracle,' then you shall say to Aaron, 'Take your staff and cast it down before Pharaoh, that it may become a serpent,'" <sup>10</sup>So Moses and Aaron went to Pharaoh and did just as the Lord commanded. Aaron cast down his staff before Pharaoh and his servants, and it became a serpent. <sup>11</sup>Then Pharaoh summoned the wise men and the sorcerers, and they, the magicians of Egypt, also did the same by their secret arts. <sup>12</sup>For each man cast down his staff, and they became serpents. But Aaron's staff swallowed up their staffs. <sup>13</sup>Still Pharaoh's heart was hardened, and he would not listen to them, as the Lord had said.

Moses had been given this one key act from God to show that God's power was behind his words – to throw down a staff, and have it turn into a snake. He does this, but then Pharaoh called these magicians and they do the same thing. But what they do is not miraculous, but a trick, an illusion. The text calls these secret arts done by magicians and what seems to be implied is not actual supernatural power, but magic tricks done by sleight of hand and trickery. And almost mocking their fake miracle, God causes Aaron's staff snake to eat their snakes. But their trick is enough to let him convince himself that he doesn't have to listen to Moses and Aaron. As we will see over and over, Pharaoh's heart is hardened. We will talk more about this later. Because simply showing God's power in a miracle of the staff turning into a snake did not convince Pharaoh – and God knew it wouldn't – we now see 10 plagues or curses come against the nation of Egypt in order to convince Pharaoh to let the Hebrews leave Egypt. We will look at the first 9 of these today, and then next week, we will look at the 10th plague that holds a special significance. So let's look at the **first plague that turns the Nile river into blood**. Each plague basically starts with a new confrontation with Pharaoh. On meeting Pharaoh, Moses would warn him what would happen if he continued to not let the people of Israel leave. So we read in chapter 9, verse 18, <sup>18</sup>The fish in the Nile shall die, and the Nile will stink, and the Egyptians will grow weary of drinking water from the Nile.””” Moses then does that very thing and verse 21 tells us, “<sup>21</sup>There was blood throughout all the land of Egypt.” And with this first plague the magicians perform a trick to give Pharaoh a reason to still harden his heart. Verses 22-23 say, <sup>22</sup>But the magicians of Egypt did the same by their secret arts. So Pharaoh's heart remained hardened, and he would not listen to them, as the Lord had said. <sup>23</sup>Pharaoh turned and went into his house, and he did not take even this to heart. As with all these plagues, all the people of Egypt were affected, but we are told specifically that Israel is protected from the plagues later on. Verses 24-25 say, <sup>24</sup>And all the Egyptians dug along the Nile for water to drink, for they could not drink the water of the Nile. <sup>25</sup>Seven full days passed after the Lord had struck the Nile. The comment here about 7 days passing give us an approximate timeline of about a week between each of these plagues, meaning about 3 months total. We should see that there is a reason for these particular plagues. Egyptian religion was in many ways like pagan religions throughout history, leading up to the thousands of gods recognized in Hinduism, which produced Buddhism. Of course Buddhism merged with native Shinto here in Japan and would recognize the existence of many different “kami” or spiritual beings. There were gods for every part of creation that would bring different blessings into people's life depending on their circumstances. These plagues were a direct attack on these false gods of the Egyptians. In this first plague, it was an attack on the Nile river. If you know anything about Egypt, you probably realize that the Nile river has always been considered the lifeblood of the nation especially in ancient times. The



river itself was considered to be a god, so for God to turn it into blood shows the one true God's power over that river.

Then we come to the **second plague**, and it is a plague of frogs that multiplied so quickly and to such a degree that we read in **Exodus 8:6** <sup>6</sup> **So Aaron stretched out his hand over the waters of Egypt, and the frogs came up and covered the land of Egypt.** Again, the magicians on a small scale did a trick that produced frogs, but Pharaoh's response is a bit different this time. He actually asked Moses to pray on their behalf to take away the frogs and in **Exodus 8:8** he promised to let the people go... **"to sacrifice to the Lord."** Then Moses asks Pharaoh what seems like a strange question, when do you want the frogs gone. Verse 10 says, <sup>10</sup> **And [Pharaoh] said, "Tomorrow."** Moses said, **"Be it as you say, so that you may know that there is no one like the Lord our God.** By giving Pharaoh a choice, it demonstrated God's power and showed it wasn't just chance that the frogs were there and it wouldn't be chance that they would go away. But once they were gone Pharaoh hardened his heart and of course did not let the people go. Now, why frogs? Frogs themselves were considered sacred. Egyptians could not kill them and the frog goddess was connected to assisting with childbirth. **The third plague begins soon after that, and in our English version it the plague of gnats**, although it's not really clear what is meant by a gnat. It could have been something like lice or even mosquitos or what we term a gnat. In a demonstration of the true God's power against the false earth god they worshipped, verse 17 of chapter 8 says, **All the dust of the earth became gnats in all the land of Egypt.** This time the magicians could not do a trick that produced gnats and they can not do any of the increasingly bad plagues. Verse 19 says, <sup>19</sup> **Then the magicians said to Pharaoh, "This is the finger of God."** **But Pharaoh's heart was hardened, and he would not listen to them, as the Lord had said.** It would take 7 more plagues before Pharaoh would humble himself to a God who only needed a finger to affect very badly the entire nation of Egypt.

**The fourth plague that comes is a plague of flies.** This plague could be a direct attack on the false god of resurrection, Kepher, who is depicted as a beetle or scarab, which these flies could have been. It could also have been an attack on Pharaoh who was seen as having the power to maintain order in the universe, but with each plague, God was bringing chaos and disorder into the universe that he actually maintained. Each time Pharaoh keeps promising to let them go, but with different conditions. Verse 25 of Exodus 8 says, **25 Then Pharaoh called Moses and Aaron and said, "Go, sacrifice to your God within the land."** Of course this isn't acceptable to not leave Egypt, so Moses responds in verses 27 and 28 <sup>27</sup> **We must go three days' journey into the wilderness and sacrifice to the Lord our God as he tells us."** <sup>28</sup> **So Pharaoh said, "I will let you go to sacrifice to the Lord your God in the wilderness; only you must not go very far away. Plead for me."** But after the flies are gone, Pharaoh again hardens his heart and doesn't let them go anywhere. The fifth plague continues to increase the devastation inflicted on Egypt. The Egyptians had many different gods represented by types of livestock both in idol images and even at least in one case a living bull that was viewed as a sacred being. In a direct attack on those false gods, the **fifth plague kills many of the livestock** of Egypt while not touching the livestock of Israel. In **Exodus 9:2** Moses says, **2 For if you refuse to let them go and still hold them, 3 behold, the hand of the Lord will fall with a very severe plague upon your livestock that are in the field, the horses, the donkeys, the camels, the herds, and the flocks.** But again in **verse 7** we read, **the heart of Pharaoh was hardened, and he did not let the people go.** The **sixth plague** is a direct assault against all the false gods the Egyptians trusted for healing – gods like Amon Re, Thoth, Imhotep, and Sekhmet. In this plague, Moses is told by God to take soot from a kiln and throw the dust into the air in front of Pharaoh and it would become boils causing sores to break out on humans and animals all throughout Egypt. Again, it seems clear that this only happened to the Egyptians not the Israelites. What we do see different in the sixth plague is in verse 12 of Exodus 9, **12 But the Lord hardened the heart of Pharaoh, and he did not listen to them, as the Lord had spoken to Moses.** We clearly see that God was behind the hardening. Does this relieve Pharaoh of his responsibility for his sin of rejecting God? No, absolutely not. In

fact, the hardening of his heart is clearly called sin on his part in the **seventh plague of hail**. Verse 34 of chapter 9 says, **34 But when Pharaoh saw that the rain and the hail and the thunder had ceased, he sinned yet again and hardened his heart, he and his servants**. God tells us in his words through Moses to Pharaoh exactly why God would harden his heart. Exodus 9:16 says, **16 But for this purpose I have raised you up, to show you my power, so that my name may be proclaimed in all the earth**. God's purpose is to show his glory – to proclaim his name to all the earth! He uses Pharaoh to do that by God's Sovereign choice to use Pharaoh's sin to bring glory to himself by God publicly and systematically dismantling the power of this man who the world viewed as a literal god at the time. In Romans 9, where Paul uses the very words of Exodus to explain it, the Bible is very clear that God is sovereign over his creatures in electing people to salvation or not, in choosing who he will show mercy to. And the Bible is also clear that humans, the creatures, are fully responsible to God for our sin. Both of those things are true at the same time as seen in this event, and we have to hold both of those as true although we see the tension between those two statements. The bottom line is that the Bible is true when it says in **Romans 3:23 that all have sinned and fall short of the glory of God**. And it is also true when God says in **1Peter 2:9, 9 that [we] are a chosen race...**

What is really incredible is that by the time you get to this seventh plague of hail, it is clear that even some Egyptians are responding to the displays of God's glory and are in some way possibly becoming worshippers of the true God. Verse 20-21 of Exodus 9 says, **20 Then whoever feared the word of the Lord among the servants of Pharaoh hurried his slaves and his livestock into the houses, 21 but whoever did not pay attention to the word of the Lord left his slaves and his livestock in the field**. Pharaoh even gives a false repentance to get rid of the plague of hail in 9:27-28. **27 Then Pharaoh sent and called Moses and Aaron and said to them, "This time I have sinned; the Lord is in the right, and I and my people are in the wrong. 28 Plead with the Lord, for there has been enough of God's thunder and hail. I will let you go, and you shall stay no longer."** Of course he didn't do this. This seventh plague of hail once again attacked a lot of Egyptian gods – atmosphere god, sky goddess, goddess of moisture and god of the wind. But the **eighth plague will attack the gods of the fields** as well as greatly affect the food supply of the people. In Exodus 10:14-15 we see this plague. **14 The locusts came up over all the land of Egypt and settled on the whole country of Egypt, such a dense swarm of locusts as had never been before, nor ever will be again**. And at the end of verse 15 we read, **Not a green thing remained, neither tree nor plant of the field, through all the land of Egypt**. The nation that initially protected the people of Israel from a famine now face a famine due to their enslavement of those people. And as God is instructing Moses to announce the 8th plague, we see clearly that God is trying to make worshippers not just of the people of Israel but the Egyptians as well. Dropping back to Exodus 10:1-2 we read, **Then the Lord said to Moses, "Go in to Pharaoh, for I have hardened his heart and the heart of his servants, that I may show these signs of mine among them,..."** So these plagues are signs for the Egyptians to draw them to worship. But then verse 2 continues... **"and that you may tell in the hearing of your son and of your grandson how I have dealt harshly with the Egyptians and what signs I have done among them, that you may know that I am the Lord."** So these plagues are to also show God's power to Israel that will make generations of worshippers out of God's people.

**Then we come to the ninth plague.** While the tenth plague is of course the most devastating plague with the loss of human life, the ninth plague lodges a direct attack at Pharaoh himself. Pharaoh was known as the son of Re or Ra (you see it both ways), the sun-god, who was also believed to be the god who created the world. It was believed that each Pharaoh was a living reincarnation of this god. So, every morning when the sun rose, it reaffirmed the power of Amon-Re as well as Pharaoh's power. In **Exodus 10:21** we see this plague. **21 Then the Lord said to Moses, "Stretch out your hand toward heaven, that there may be darkness over the land of Egypt, a darkness to be felt."** Have you experienced darkness so deep you could feel it? This was the darkness that they experienced. And just to make it really clear this was supernatural

and not some environmentally related event, we read in **verse 23, They did not see one another, nor did anyone rise from his place for three days, but all the people of Israel had light where they lived**. Pharaoh has been giving in a little more each time, but not fully, and finally with this plague, he says you can go but leave your flocks and herds of animals behind. Of course, this is not acceptable and Moses says so, and we see the final interaction between the two in verses 27-29. **27 But the Lord hardened Pharaoh's heart, and he would not let them go. 28 Then Pharaoh said to him, "Get away from me; take care never to see my face again, for on the day you see my face you shall die." 29 Moses said, "As you say! I will not see your face again."**

I know this sermon is long, but bear with a few more minutes. I want to give you two applications of this text. One is spiritual and religious. What are most people doing at a shrine or temple if they go? They are looking for some kind of help or good fortune on various things in their life. So, you will see people with OMAMORI or other amulet type of things they receive from the temple or shrine. Most people are not thinking about this as any form of worship, but more a form of a good luck charm. This may not be worship, but it is putting your hope in some spiritual place related to false gods and superstition. Even outside of a Japanese context, you see people who in various ways will act on cultural superstitions. Just like the Egyptians finding their hope in false gods, these superstitions provide a false place for hope. As a Christian our hope must be found in Christ, God himself, who is greater than any spiritual source of these superstitious beliefs. If one thing is made abundantly true in these plagues, it is that the God of the Bible is greater than any false gods of manmade religious systems. But there is a second application here. All of us even if we don't worship the gods of health, environment, prosperity or a specific man like Pharaoh, we sometimes in a very pragmatic and practical way, put our hope in all of those things rather than God. We put our hope in the work of doctors. We can raise concerns about our environment to the place of putting creation above the creator who controls all aspects of this world. We can put our hope in politicians or even pastors rather than in God. The take away from the Plagues is that our God is greater than anything in this world. If we find our hope, our salvation in any place, thing or person other than Jesus Christ who is God himself, then we have no hope. The people in Egypt learned this lesson as they saw their god, Pharaoh, powerless in the face of the true God. How can we in a modern sense fail to see the same powerful God provide us a more trustworthy and ultimate foundation than any of the other things in this world that try to provide us with that same hope that ancient Egyptians took in false gods? Let's trust the God who calls us to glorify himself by the mighty acts we see in Scripture and see today in our own lives. Let's pray.